

## 市長記者会見記録

日時：2019年8月6日（火）14時00分～14時35分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

### <内容>

#### 《横浜市立大学病院の情報漏えいについて》

【司会】 ただいまより市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。早速、質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

【幹事社】 よろしく申し上げます。

【市長】 お願いします。

【幹事社】 この間、幾つか出来事があって、何点かお伺いしたいんです。まず直近の話からですが、昨日、横浜市立大学附属病院さんのほうでの情報漏えいに関して、（市立）井田病院の医師の方も定められた手続をとらずに、目的外での外部への情報提供、データ提供というのをしていたことが発表されました。この事案に関しての受けとめをまず市長のほうにお伺いしたいんです。

【市長】 まず、病院も問題ありますけれども、医師個人としても個人情報をおのうに軽く取り扱っているということ自体、大変、正直驚いたということと同時に、そういったことに巻き込まれてしまった患者の皆さんに、心から本当に申し訳ないと思っていますし、改めて、市立病院全体として個人情報の取扱いについては徹底するよということできっかりと伝えました。

臨床研究ということでもありますけれども、しかし、（情報提供に）使われていたのは個人アドレスということもあって、本当に個人的に医師がこんなことをやるのかと、正直、医師の倫理観というところに非常に衝撃を受けましたけれども、それは、衝撃を受けたというのは私たち内部の話であって、大事なのは今回、情報漏えいという形で個人情報が流されてしまった、被害に遭われた患者の皆さんなので、そのことをもって深く反省してお詫びするとともに、二度とこのようなことがないように徹底をしてまいりたいと思っています。

【幹事社】 内規にも違反していたということもありますし、そもそも市の職員が個人情報を外部に漏らすというのは、おそらく関係法令にも違反の可能性もありますし、

ただ、関わった医師の方お二人、既に退職されていることもあって、当該の医師の方に対する処分というのはちょっと難しいのかなという感じもするんですが、再発防止ということとあわせて、今後この件に関してはどういう対応をされるんだろうかということをお伺いしたい。

【市長】 それは私も、退職しているからといって責任が遡及できないというのは、これ医局の人事だということで、何年かに一遍、どんどん病院を移りかわっていくということを考えると、例えば医師法にこれは違反してないのと、正直。守秘義務が課せられているわけで、そういったものに違反しないのかということ単純に思うわけです。しかし、今回、横浜市大の臨床研究ということでの情報提供ということで、守秘義務ということには当たらないということなので、非常に難しいなと思うんですけども、ただ、私の普通の感覚で言うと、(医師が) 転院してしまって、それで終わりというのは何とも納得いかないと思っています。組織的な対応というのが非常に困難であるからこそ、このケースを非常に重く受けとめて、改めて個人情報の取扱いというのを徹底するようにということを申しました。

#### 《日韓関係悪化関連について》

【幹事社】 わかりました。すいません。それで、ちょっと話変わって、先日、富川市のサッカー少年団の派遣について延期という話がありました。あのときも市長コメントを出していただいていたのはいるんですが、そういう事態になっている、なってしまったことについてどういうふうにご考えておられるか。

【市長】 私のコメントにも出しましたけども、国が緊張関係にある時も、富川市との姉妹都市交流を続けてきましたけれども、こういう形で一方的に延期しますというのは大変残念に思いますし、また、残念に思っているのと、不信感に思っている人たちというのは結構多いんじゃないかなと思います。

【幹事社】 かといって、友好都市であることはまだ変わらないわけで、この後、要はどうやって交流を再開、継続させていくのかと、対話のチャンネルというのを、今回は先方が延期をしますというメールでのやりとりだったように聞きますけれども、この後、川崎市側から何らか働きかけをするのか、それとも先方のもう1回やりましょうというものを待つのかという意味では、どういうスタンスで臨まれるんですか。

【市長】 あくまでも待ちですね。というか、今回の一連の話というのは、そもそも国交正常化の基本になっている請求権協定の話というのが違反状態になっているわけで、もはや国交の危機になっているんじゃないのという、そういう状態だと私は認識

していて、非常に市としては残念なことではありますけれども、その根本が正されないことには、なかなか難しい問題になっているのではないかなと思っています。もはや市レベルの域は越えているのではないかという思いがいたします。

【幹事社】 そういう意味では、先方がまた何かしら継続したいという意思表示をされない限り、何らかの交流をするということは難しいということでしょうか。

【市長】 こちら側から何か求めていくという話ではないと思います。あちらからの延期の要請ということでもありますから。

【幹事社】 わかりました。すいません、長くて。

【市長】 いいえ。

### 《ふるさと納税について》

【幹事社】 今日ですか、例のふるさと納税の返礼品の募集というのを始めました。今回の取組についての意気込みというか、期待感というか、どういう、これまでもふるさと納税の趣旨と乖離している状況、現状であるだとか、いろいろなことをおっしゃっているんですけども、改めて、本格的に取り組まれる、10月に本格的に募集を募る、寄附を募るに当たってどういうスタンスで臨まれていくのかということをお教えください。

【市長】 そうですね。単純な返礼品合戦で何でもいいからということではなくて、あくまでもやはり川崎市の魅力をアピールできるものといった、そういった方向性は堅持してやっていきたいと思っています。今回、事業者さんへの説明会を行いますけれども、非常に関心が高く、また、ものすごく意欲を持っていて、財政局によると「待っていました」というような表現を使っていましたけれども、そういうような感覚があると聞いていますので、そういった意味で、いい川崎のアピールにつながるよう努力をしていきたいなと思っています。

【幹事社】 看過できない状況というふうに確かおっしゃったのがまだ流出額が30億円台だった頃だったかなと記憶しています。それが現状だと50億という見込みとなっています。どんどん状況が拡大しているということについては、改めてですけども、どんなふうに受けとめておられるのか。

【市長】 今回、ふるさと納税から除外された4地域がありますけれども、そのところに、川崎市民も相当な割合で流出していると。要は金券ですね。金券の次にはお肉とかと、そういうような話になっているので、もはやふるさと納税の趣旨から逸脱していると。そのことを、やはりふるさと納税の正しい趣旨というのを市民の皆さん

にも御理解いただくという努力はこれからも続けていかなければいけないし、また、市民サービスがこういう形で返礼品に変わっていくということというのが果たして、自らに返ってくる話であるので、そのところを丁寧に御説明していかなければいけないだろうなと思っています。

【幹事社】 わかりました。とりあえず私のほうからは以上です。

#### 《（仮称）差別のない人権尊重のまちづくり条例関連について》

【幹事社】 それでは、一問だけ。同じく幹事社です。

一問だけですけど、差別のない人権尊重のまちづくり条例について、パブコメが今週いっぱいということになって、非常に多くの意見が寄せられていると聞いています。賛否ともに非常に多いと聞いていまして、いかに市長、今後、幅広い意見を踏まえて条例制定に向け進んでいくのかというところを一言。

【市長】 そうですね。まだパブコメ中ということで、件数についてはまだ申し上げられる段階にないんですが、相当な件数が来ていると聞いています。非常に関心の高いテーマだなと。それは市内外を問わずということですので、非常に注目が高い。予測していたとおりでありますけれども、1つ1つの御意見を伺う中で慎重に意見を捉えていきたいなと思いますけれども、パブコメ中ということですから、しっかりと受けとめていきたいということですかね。すみません。

【幹事社】 私から、以上です。各社さん、どうぞ。

#### 《横浜市立大学病院の情報漏えいについて》

【記者】 先ほど個人情報流出の件で、広い意味で医師法違反で、守秘義務違反なんじゃないかというふうなお言葉もありましたけれども、法律違反だということで当該医師に何か対応することはあるのでしょうか。

【市長】 いや、要はそういう一般的な私の感覚ということはありませんけれども、実際上は、やはり医師法違反というものを問うような案件ではないということなので。

#### 《日韓関係悪化関連について》

【記者】 はい、わかりました。あと富川市の件に絡んでは、これは、延期というのは一方的に通告があっただけで、要はやりとりないままそういうメールが来たと、そういう捉え方でよろしいのでしょうか。

【市長】 そうですね。事前のというよりも、メールで来たということだという感じ

です。

#### 《（仮称）差別のない人権尊重のまちづくり条例関連について》

【記者】 あと、すいません。ちょっとこれ、事務方に聞けばいい話なんですが、パブコメの件なんですけれども、賛否いろいろ多くの意見があるという中で、私の拙い経験だと、パブコメというのは市民の意見を提案する文言に反映させていくことなんだと理解しています。例えばこの条例自体を否定するような意見というのを何か、やっぱり提案をやめようとか、そういう意見が仮にある程度の数まとして来たとしたときに、それは考慮するものなのでしょうか。

【市長】 素案の出しているものに対する御意見ということで、全国からということもあるので、そういうことをもろもろ考慮していきたいと思います。

【記者】 はい、わかりました。ありがとうございます。

【幹事社】 そのパブコメに関してなんですけど、相当な件数が来ているというのは、先ほど予想したという表現だったか、ある程度想定していたというようなことですが、やはり想定していたのか。これぐらい来る、件数はあれですけれども、相当な、市でこれまでやったパブコメの中では多分ずば抜けて多いぐらいの件数がおそらく最終的には集まるんだろうなと見ていますが、これだけ関心と呼ぶということまで予想されていたのか、もしくは予想されていなかったのか。もしされていたとすると何でここまで関心と呼ぶものになるだろうと思われたのか。

【市長】 件数はともかくとして、相当な数になるだろうということは予測していたということはあります。なぜそうかという、やはり全国初となる罰則付きのという形になると、やはり、市民ではない方たちからの意見というのも相当多いだろうなというのは、これまでの一連の流れというか、感覚の中からそうなるだろうなと思っていたので、そういう意味では想定していましたという感じです。

【幹事社】 反対している方の中には、要はこれは日本人に対するヘイトであるというような主張をされている方もいらっしゃいます。まだパブコメの期間中ですから、その内容について云々ということはもしかしたら難しいのかもしれませんが、なかなか、ただ条例の趣旨を御理解されていないのかなという印象もあって、そういう意見に対してはどういうふうに考えて。

【市長】 そうですね。それは市長への手紙でも条例素案を御覧になっていないだろうなというような御意見というのがかなりあると思います。ですから、ぜひ条例素案を読んでくださいと。その上でパブリックコメントを求めているので、そこは読み込

んでいただきたいなという思いはありますね。

#### 《日韓関係悪化関連について》

【幹事社】 タイミング的にも、先ほどもありましたけれど、富川市との交流が延期になったりだとか、おそらく条例を制定というものを表明されたタイミングと、特に市内に在日コリアンの方が多いことを考えると、日韓関係というものの緊張の高まりというのが多少なりともやはりこの条例というものの議論にも影響しているのか、このパブコメの寄せられ方のところも影響しているのかなと感じるんですけど。

【市長】 パブコメの意見だとか、あるいはこういう表現が正しいかわかりませんが、何となく空気感というのは、なぜこのタイミングでという感じで直接私に言われる方もいらっしゃるけれども、正直全く別物なので。今回の韓国政府の対応だとか、これは、外交問題は（市の）専権事項ではないので、国の話ですから言うべき話じゃないのかもしれませんが、個人的ですけども、非常に腹立たしく思っている思いと、今回の条例の話というのは全くの別物なので、そこには全く連動するというのはおかしいことですので、ここは極めて冷静に議会と議論を進めていきたいなと思っています。市民の皆さんにも、こういうことなんだということをちゃんと丁寧に説明していかないと、これがいっしょくたになってしまうというのは全く理論的ではないことなので、ここは理論的にしっかりと議会との議論を進めていきたいなと思います。

【幹事社】 ほかの自治体さんの話で恐縮なんですけれども、愛知県での「あいちトリエンナーレ」についても、慰安婦像の展示だったりだとか、なぜこのタイミングでという批判というのも一定程度あるやに聞いています。それに対して名古屋市長が批判の抗議文を出したりだとか、政治家も絡んでの騒動になりました。まずあの件を首長としてどういうふうにご覧になったのかというのをちょっとお伺いしたいなと思っております。

【市長】 そうですね。一連の報道から聞いていて、私も、これは非常に難しい問題だなと、昨日の夜も、うーんと考えていましたけど、いや、結論的に言うと、私自身の中で答えは出ていないんですね。それほど難しい問題だなと思っていて、芸術作品ということなんですけれども、極めて政治的でかつこれは政治活動なのと思うようなことが起こり得るということと、政治活動なんだけれど、芸術の表現の自由だという形で芸術作品に仕立ててしまうと。でも、誰がどの視点で見るかによって全然物事が違って見えてきてしまうので、私はそう感じた、あなたは違うというので、ものすごく

く分かれてしまうので、それを、例えば私がこうだと断定してしまうということが果たしてできるのだろうかという、そこは非常に悩ましいなと思っていました。あの立場だったらどういう判断をするだろうかというのは正直悩ましい。それぐらい難しい問題だなと思っています。

【幹事社】 なるほど。政治的に中立であるということを求める風潮というのは、私の感覚だと、本当にこの10年、15年ぐらいでどんどん強まっているなど。以前にも別のタイミングでも、市長にもそんなようなやりとりをしたような記憶もありますが、そもそもアートは政治的なものを一切排除しなければならないのかと言われてたら、多分、私は違うと思っている。少なからず絡んでくる部分もあると思う。ただ、ああいう大規模なアート展というのは多少なりとも公金の支出がないと、なかなか現実的には開催ができない。仮に川崎市ではやれるような、あの類いのイベントをやりたいか、やりたくないかは別として、開催ができるかどうかという意味ではどっちなんでしょう。

【市長】 開催ができるかですか。

【幹事社】 ああいう多少なりとも政治的な主張を含んでいる作品群を並べる企画展を、川崎市が主催者の1人となってやれるかどうか。

【市長】 今回は少女像の話になっていますけど、例えば市内の展覧会みたいな形でやっても、この作品、ちょっと政治的かなという表現みたいなものというのを、垣間見られる作品は結構あります。それを切り離せるかという、なかなか切り離せないんだろうなというものもあるし、今回、非常に象徴的なものが出展されていたから意外と問題になっているんだと思うんですけど、日常的にはある話だと思います。答えになっているか。要は物議を醸している展示会をわざわざ川崎で今やれるのかというようなそんな御質問ですか。個人的には、あんまりごちゃごちゃしたくないというのはあります。会見にふさわしい言い方かどうかは別にして。ただ、できるかどうかというとうどうなんでしょうね。

ただ、これまでもこの会見の場でも、(市は)貸し館業務をやっているものであって、これがふさわしくないんだという主張をされる団体と、いやいや私たちは、よほどの例えば公共の福祉に反しない限り、それは貸しますよというのは、これはもう普通、当たり前の話なので、物議を醸す話はいろいろ何度かありました。それでも、いわゆる法令に従って適切な対応をしてきたと思いますし、何か今後もそういうことがあれば適切に対応していきたいなと思いますね。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。

#### 《多摩区登戸新町刺傷事件関連について》

【記者】 登戸であったカリタス小学校の事件なんですけれども、市バスの貸出しと、それから、臨床心理士の方の派遣について、市バスについては確か夏休みまでということだったかと思います。7月が過ぎまして、現状、市として御対応、どういうことになっているのかについてお尋ねしたいと思います。

【市長】 夏休み明けからは、これはちょっとごめんなさい。私から言っていいのかな。学校からの発表じゃなくて大丈夫かな。これは、例えば市バス対応の話だとかは、学校側から発表するとかということも前回あったので、今回、私が申し上げていいのかというのがちょっとその協議ができていないというのがあって、一方的に申し上げていいのかなと。一部、夏休み明けも市バスを利用したいという声をいただいているということは承知はしています。結果についてはまだちょっと。

【記者】 承知しました。

【市長】 心理士等については一旦、全ての役割を終えてということで、先日、カリタスの理事長さんもお見えになって、本当にありがとうございましたという話でありましたけれども、引き続き何かあればいつでもおっしゃってくださいということを伝えましたので、何かあれば臨機応変にということであります。

【記者】 一応、市として派遣された方は一旦引き上げられたということですか。

【市長】 はい。

#### 《「サッカー&ユニバーサルツーリズム」について》

【記者】 ありがとうございます。

あと、すいません。別件なんですけど、先月末にクワイエットアワーという取組を行われていたかと思いますが、イオンさんで。あと、並びにフロンターレとのセンサリールームもなされました。どちらも商業施設ですとか、Jクラブとしては初めての、日本初の試みだと伺っております。川崎市でパラムーブメントを進められておりますけれども、ああいったことが川崎発で行われたということに関しての御感想と、初回が行われたわけですが、今後もお続けになっていかれたいかどうかについてお尋ねしたいです。

【市長】 ありがとうございます。発達障害の中で感覚過敏があるお子さんたちとその親御さんたちをお招きしてフロンターレのホームゲームを御観覧いただいた、あるいは商業施設で、新百合ヶ丘のイオンさんでやらせていただいたということですね。

ども、この間、かわさきパラムーブメントを進めていく中でさまざまな方たちとお会いすることがあって、そんな中から、発達障害を抱えていることによる困難にはこんなことかあるんだけどもというお声がけをいただいて、じゃ、一緒にとということで、いろいろな企業の皆さんだとかパートナーを増やしながらかような形にできたというのは、まさに本市が目指しているかわさきパラムーブメントの取組の1つの形態ができたということで、大変嬉しく思いますとともに、本当に関わっていただいた企業の皆さん、あるいは発達障害、今回に関しては特に感覚過敏のことについて専門的な知識をお持ちの団体の方、グループの方たちからすごくサポートをいただき実現したんですね。こういうことがほかのところにも広がっていくための1つの事例になったのではないかなと思っています。

今回、Jリーグから、村井チェアマンもお越しになっていて、今度は大阪だったかな。他の会場でもやられるということで、だんだん広がっていくことを期待したいと思いますし、何よりも、私も含めてこういう感覚になるんだということをVRで体験できたりして、感覚過敏はこういうことなんだということを私自身も知れたし、参加していただいた方たちにも体感していただいたということは、この障害の理解につながるという意味でも、またその対応ということについても、みんなの輪が広がっていった、いい取組になったんじゃないかなと思います。今後も、できる限りそういう取組をいろいろな場で広げていければいいかなと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

#### 《川崎駅東口さいか屋跡地等について》

【記者】 明後日、さいか屋の跡地にパルコさんのゼロゲートが開業します。この春にもルフロンの中でフードコートができたり、今月もスーパーマーケットライフが開業したりと、一時期、ちょっと東口のほう寂しくなっているような感じがするということを、市長も以前、視察されておっしゃっていましたが、最近は東口のほうは歩かれましたでしょうか。

【市長】 そうですね。歩いています。大分変わってきたなとも思いますし、イベントなども市と近隣の方たちが連携して、にぎわいを東口の方にも作っていかうという取組は大分、徐々にではありますけども、功を奏してきているのではないかなと思います。今後、水族館だとか新しい動きも出てきますし、そういう意味では、西から東という全体的な回遊性がどんどん高まっていくという意味では、今回のさいか屋跡地の

パルコさんを大きな起爆剤に、きっかけになるのではないかなと期待しています。

【記者】 ありがとうございます。

#### 《日韓関係悪化関連について》

【記者】 すいません。韓国の輸出規制に絡んで、ホワイト国除外、外交は国の専管事項なんで、川崎は何ら判断に絡む立場にはないと思います。そういう中で何か川崎の経済に影響が出始めている状況があったりするのかな、今後出る懸念があるのかな。というのは、前、韓国の自動車産業においては、例えば三菱の部品を多く作ってラインを動かして、まるで日本車のような韓国車をたくさん作っていた時代があったのが、大震災を機に部品が全部、韓国国内で調達されるようになって、日本からの自動車部品の輸出というのがほとんどなくなったというような話を聞き及んでおります。

今回の事案、ホワイト国除外で同様のことが何か懸念されているか、何か今後、今、起きつつあるような、そういう情報というのをおありでしょうか。

【市長】 いや、現時点では、何かそういう声が聞こえてきているというのは、私のほうでは把握をしておりますけれども、ちょっと今後の影響についてはわからないですね。

【記者】 わかりました。

【司会】 他はいかがでございますか。

【幹事社】 じゃ、最後に1点だけ。どうぞ。

#### 《おとなの寺子屋について》

【記者】 先日、市長が寺子屋で、高津区の一般家庭のほうに行かれまして講師を務められたと思います。一般の家庭で、市長がああやって子供たちと一緒に政治について話し合ったり、一緒に学ぶような機会というのはなかなか珍しいと思うんですが、いかがだったでしょうか。

【市長】 そうですね。小学校2年生ぐらいの方から大学生ぐらいまで幅広い年齢層だったので、どのぐらいを対象にして話せばいいのかというのはすごく難しかったですけれど、ただ、もしも川崎市長になったらどうしますかという話の時に、それぞれの年代に合わせた、このまちを思う気持ちというのが伝わってきて、有意義な意見交換ができたと思います。こういうことが、広い意味で言えば、シティズンシップ教育だとか、あるいはまちの愛着につながっていくだとか、願わくば、その子たちが市長を目指すとか、政治家になろうと思ってくれたらすごく嬉しいなと思ってさせていた

できましたけど、ああいう機会をいただければ、私もどこでも行きたいと思いますし、市議会議員の皆さんもああいう機会があったら、どんどん一緒にやっていく機会があれば、結果的には投票率の向上にもつながるんじゃないかなと思いますし、非常にいい取組で感謝しています。

【記者】 かねてから取り組んでいる地域の寺子屋授業の発展形とも言えるのかなと思うんですが、学校の中や学内だけの活動以外に、こうしたアプローチがあるというのも有意義なわけですね。

【市長】 そうですね。まちを良くしていこうとする人たちがそういう自主的な子どもたちへの「なるには講座」という話だったですけど、ああいう取組をされているということに非常に私も共感しましたし、ああいう方たち、ああいうグループが市内にいっぱい、いろいろなところでできていくと、子どもたちもいろいろな大人の背中を見て、自分も頑張ろうという気になってくれるんじゃないかなと。いい機会だったですね。

【記者】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

#### 《市長の夏休みについて》

【幹事社】 明後日から夏休みですか。

【市長】 はい。

【記者】 夏休み、御予定は。

【市長】 ほとんど家におりますけど、特に、今回はそんな遠出をすることは。

【幹事社】 遠出の予定はない。

【市長】 ちょっとありますけど、2日間ぐらいですかね。

【幹事社】 ちなみに、どちらのほうに。

【市長】 埼玉県です。

【幹事社】 ムーミンですか。違いますか。

【市長】 妻の実家もありますので。

【幹事社】 わかりました。ありがとうございます。

【司会】 他はいかがでございますか。ないようでございますので、以上をもちまして、市長会見を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(以上)

- 
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355